

2021 年度外来表

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
A M						
スタッフ	岡田	平形	厚東	慶野	山田昌	井上
紹介初診	片岡・望月	水野・山田健	齋藤翔(第1, 3, 5週) 林(第2, 4週)	富田・長堀	津田	高橋・内田
再 診	井上・北・廣田 安藤・野地 眼窩(今野・柳沼・ 齋藤恒・津田)	鈴木・中山・齋藤恒 富田・津田・内田 林・加藤・角田 高間(隔月1)	松木・片岡 久須見・安藤 高橋・前田	厚東・北・片岡 齋藤恒・水野 望月・日下	松木・石田・山田健 鎌田・重安・久須見 小児 (鈴木・濱・満川・富田)	廣田・齋藤恒 望月・齋藤翔 長堀(第2, 4週) 角田(第1, 3, 5週) 堀江(第4, 5週)
P M						
専門外来	眼炎症 岡田・慶野・渡辺交 中山・安藤・林	網膜硝子体 平形・石田	黄斑 岡田・片岡 中山・篠原	眼炎症 慶野	糖尿病 勝田(第2, 4週) 平形・岡野(第2, 4週)	
	網膜硝子体 井上・廣田	角膜 山田昌・重安 藤井・久須見	緑内障 吉野(第2週)・北・齋藤恒 村井・望月・内田	緑内障 五月女(第1週)・北 齋藤恒・望月	神経眼科 気賀沢(第2, 4週) 渡辺敏(第2, 4週)・林	
	緑内障 北・山口(第1, 3, 5週)		水晶体 松木	黄斑 岡田・山本・片岡・中山	小児 鈴木・濱・満川・富田	
				角膜 山田昌(第1, 2, 4週)		

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<12th Eye Center Summit>

2021 年 4 月 17 日(土) 17:30~19:30 開催形式: Web
場所: 丸ビルホール&コンファレンススクエア 7F「丸ビルホール」
会費: 1,000 円(日本眼科学会認定専門医 2 単位)
講演 1「ドライアイ診療、最近の進歩」
島崎 潤 先生(東京歯科大学市川総合病院 教授)
講演 2「OCT、OCTA など最新の検査器械から学ぶ黄斑疾患の病態と治療戦略」
辻川 明孝 先生(京都大学大学院医学研究科眼科教授)

<第 11 回東京多摩眼科連携セミナー>

2021 年 5 月 15 日(土) 14:30~17:00 開催形式: Web
会費: 1,000 円(日本眼科学会認定専門医 2 単位予定)
「精神症状及び向精神薬の副作用としての眼症状」
渡邊 衡一郎 先生(杏林大学医学部精神神経科学教室 教授)

<第 5 回多摩眼科 3M ネットワーク>

開催日程: 2021 年 7 月 7 日(水) 19:00~21:00 開催形式: Web
会費: 1,000 円(日本眼科学会認定専門医 2 単位)
教育講演: 「緑内障の新しい視野検査」
木村 至 先生(東海大学医学部付属八王子病院 眼科 教授)
特別講演 I「糖尿病網膜症の診療 2021」
吉田 茂生 先生(久留米大学医学部 眼科学講座 主任教授)
特別講演 II「緑内障診療アップデート」
中澤 徹 先生(東北大学医学部 眼科学教室 主任教授)

<第 3 回日本近視学会総会>

開催日程: 2021 年 5 月 22 日(土)・23 日(日)
開催場所: 赤坂インターシティコンファレンス
開催形式: ハイブリット(現地または Web)開催
両日とも日本眼科学会認定専門医各 3 単位
招待講演 1: 「Anti-microRNA oligonucleotide as an eye drop for treatment in pediatric myopia」
Suh-Hang H. Juo 教授(China Med Univ, Taiwan)
招待講演 2: 「Low-concentration atropine for myopia control」
Jason C. Yam 先生(The Chinese Univ of Hong Kong)
シンポジウム 1: 眼疾患における近視の影響
シンポジウム 2: 近視の疫学と進行予防
教育セミナー: 近視外来の Update



編集部からのコメント

COVID-19 感染蔓延が止まりませんが、そんな中で新しい変化は希望の灯です。片岡講師はメディカルレチナを向上すべく、OCTAなどを駆使した診断法の進歩に張り切っています。眼炎症、神経眼科の診断・治療法も改善してきています。アイセンターのスタッフメンバーも少しずつ変化していますが、難治例が多いこれらの分野のご紹介も含めて、本年度もよろしくお願ひします。5月の近視学会もハイブリッドで行いますので、webも利用して、多数の皆様のご参加をお待ちしています！(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 61
Spring
2021

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

◆講師就任の挨拶(片岡 恵子)<1-2> ◆イベント情報<4>
◆神経眼科外来の近況(渡邊 敏樹)<3> ◆編集部からのコメント<4>
◆入院加療を要する神経眼科疾患(林 勇海)<3>
◆2021年度外来表<4>
＜執筆者:括弧に明記 production:岡田アナベルあやめ、中山真紀子、富田茜、草壁裕子＞

講師就任の挨拶(片岡 恵子)



片岡 恵子

本年 1 月、杏林大学眼科講師を拝命いたしました片岡恵子と申します。この度の東京への転居に伴い、今後の眼科医としても道を悩んでいましたところ、平形先生、岡田先生、井上先生をはじめ、杏林の諸先生方に大学で黄斑の臨床を続けていく機会を与えていただきました。先生方にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

私は、2005 年に名古屋大学を卒業し、2007 年名古屋大学眼科に入局いたしました。名古屋大学は網膜硝子体が専門の医局でしたので、眼科の初期トレーニングとして元名古屋大学教授の寺崎浩子先生の下、網膜硝子体を主とした疾患の研鑽を行いました。入局と同時に大学院博士課程にも入学し、現名古屋大学教授の西口康二先生に基礎研究のご指導をいただき、網膜血管新生のメカニズムの分子生物学を学びました。より知識を深めたいとの思いから 2012 年米国のハーバード大学医学部付属病院である Massachusetts Eye and Ear Infirmary (MEEI) へ研究留学いたしました。岡田先生がハーバード大学医学部で出身でいらっしゃることや、私が留学していた時期に杏林大学の学外講師をされている Yoshihiro Yonekawa 先生が眼科のレジデント中で、私も交流があったことは、今回杏林大に入局させていただきましたことと何かで縁を感じずにはられません。2015 年帰国し、その後は名古屋大学にて黄斑の専門医として臨床研究を行ってまいりました。黄斑疾患は、加齢黄斑変性をはじめ、最近話題の慢性中心性漿液性脈絡網膜症を含む Pachychoroid spectrum、強度近視などを得意としております。ちょうど 2015 年ごろから OCT angiography の技術が向上し、画質も劇的に良くなりました。これはチャンスと黄斑疾患の OCT angiography を用いた臨床研究を若い先生と共に行ってまいりました。

OCT angiography を用いた黄斑疾患の確定診断の方法の確立は、患者さんにも低侵襲である上に、FA・ICGA では捉えきれない小さな脈絡膜新生血管も検出できることから実際の臨床現場でも有用性が高いと考えております。黄斑疾患の診断でお困りの際は、ぜひご紹介いただけますと幸いです。

元々三重県で生まれ育ち、大学からは名古屋やその近郊で過ごし東京には学会に来る程度でした。初めて東京に引っ越してまいりましたが、電車の路線の多さに困惑し、気を抜くと間違った方向の電車に乗ってしまいます。名古屋では、眼底は倒像で記載する文化でしたので、カルテのシェーマを書き間違える自分に辟易します。「ものもらい」のことを「めんぼ」と呼んでいたのが、患者さんと看護師さんに通じず恥ずかしい思いをしたりと、まだまだ毎日驚きの連続です。至らぬ点が多く医局の先生にはご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、どうぞご容赦いただけますと幸いです。

これまでの経験を活かし杏林大学および多摩地区の眼科診療にメディカルレチナの専門家として少しでも多く貢献すべく臨床を行うこと、そして臨床研究を通して若い先生にも新しい何かを「知る」という楽しさを伝えていくことが私に与えていただきました役目と考えております。アイセンターのさらなる発展に貢献できますよう精進してまいり所存ですので、どうかご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



左から片岡恵子、岡田教授、山本亜希子、中山真紀子
左上 篠原大佑

略歴

2005 年 名古屋大学医学部 卒業
2007 年 名古屋大学眼科 入局
2011 年 名古屋大学大学院博士課程 修了
2012 年 Massachusetts Eye and Ear リサーチフェロー
2015 年 名古屋大学医学部附属病院 眼科 助教
2020 年 10 月名古屋大学医学部附属病院 眼科 病院講師
2021 年 1 月杏林大学医学部 眼科学教室 講師

神経眼科外来の近況(渡邊 敏樹)

神経眼科外来は、視神経疾患などを扱う一般神経眼科外来と、非器質性の視機能障害を扱う心療眼科外来の 2 部門を設置しています。一般神経眼科外来（第 2・4 週の金曜日）は渡邊敏樹、林勇海先生、慶野博教授が、心療眼科外来（第 2・4 週の金曜日午後）は氣賀澤一輝先生、眞島行彦先生が担当しています。

一般神経眼科外来へ来院される患者さんは、視神経炎・虚血性視神経症・圧迫性視神経症などの視神経疾患、動眼神経麻痺・外転神経麻痺・滑車神経麻痺・重症筋無力症・Fisher 症候群・sagging eye 症候群などの眼球運動障害を呈する疾患など様々です。治療に関しての最近の話題は、重症視神経炎に対して免疫グロブリン大量静注療法とサトラリズマブ（ヒト化抗 IL-6 受容体リサイクリング抗体）皮下注射が保険適応になったことで、治療の選択肢が広がりました。

心療眼科外来には原因不明の眼痛、目の違和感、羞明などを訴える身体症状および関



左から慶野教授、林勇海、
渡邊敏樹、氣賀澤一輝、眞島行彦

連症候（米国精神医学会分類上の言葉）、心因性視力障害、眼科術後不適応症候群などの患者さんが来院されます。治療は器質疾患を除外した上で、精神療法・薬物療法などを行います。心療眼科外来を置いている施設は全国的にも少なく症例が集まります。

最後になりますが、COVID-19 は神経系への影響が大きく、約 38% の患者が神経学的な異常を呈したと報告しています。神経眼科領域では視神経炎、虚血性視神経症、うっ血乳頭、動眼・滑車・外転神経麻痺、Fisher 症候群、重症筋無力症、瞳孔緊張症などの報告が見られます。全身症状が軽く眼症状を主訴に来院される症例が存在することを念頭に置きながら、今後のワクチンに対する神経眼科的な副反応にも注意を払って行きたいと思っています。

入院加療を要する神経眼科疾患(林 勇海)

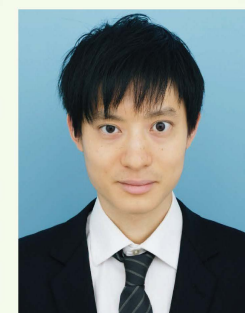
最近、神経眼科領域で入院加療を要する症例は明らかに増加傾向にあります。その中で視力予後不良な疾患である抗アクアポリン 4 抗体陽性視神経炎、原因の同定に苦慮することの多い眼窩先端部症候群について実際の診療の流れも含めご紹介したいと思います。

抗アクアポリン 4 抗体陽性視神経炎

視神経疾患の原因で最多の視神経炎は、同時に入院症例の大半を占めます。その中でも抗アクアポリン 4 抗体陽性の視神経炎は視神経脊髄炎に関連し、強い軸索障害をきたし予後不良の疾患です。進行が早く、入院後には既に光覚がない重篤な視機能障害をきたしている症例もあり、迅速な対応が必要です。入院初日から神経内科へ全身の神経診察や髄液検査を依頼、眼窩部造影 MRI を緊急で依頼し視神経炎を診断します。感染症を含め全身状態に問題ないことを確認後、急性期治療としてステロイドパルス療法を行います。ステロイド治療に抵抗性を示す症例も比較的多く、血漿交換療法や免疫グロブリン大量静注療法を行う場合もあり、多くの他科連携が必要となります。同時に患者さんは視力障害や今後の見通し、薬剤の副作用などについて多数の不安を抱えていることも多く、日々の診療ではお話を傾聴したうえで丁寧に説明を行うことを心がけています。

眼窩先端部症候群

上眼窩裂を通る動眼・滑車・三叉・外転神経や視神経などが複合的に障害されて生じる一連の症候群で、原因は真菌やヘルペスなどの感染性、非感染性炎症性疾患、腫瘍性と様々です。視機能障害が強い症例に対しステロイド全身投与を含む積極的加療を検討しますが、特に糖尿病や副鼻腔炎を有する症例でステロイド投与により真菌感染が増悪し死亡する報告もあり、現状では真菌感染を完全に否定することが困難なため、当院では抗真菌薬併用下にステロイドを投与する試みをおこなっています。



林 勇海